

◆令和8年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 国語科 》

全体の概要

- ・全体的に見ると、県平均と同じであり、全国平均をやや下回っている。
- ・観点別に見ると、「知識・技能」は県平均とほぼ同じであり、全国平均を大きく下回っている。「思考・判断・表現」は県平均とほぼ同じであり、全国平均をやや下回っている。
- ・問題形式別に見ると、「選択式」は県平均とほぼ同じであり、全国平均を大きく下回っている。「短答式」では県平均と全国平均を大きく下回っている。「記述式」では県平均を大きく上回り、全国平均とほぼ同じである。

観 点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	【情報の扱い方に関する事項】 ・問題文や資料から必要な情報を見付ける問題に課題が見られた。設問の条件を十分に把握しないまま解答したり、必要な情報を読み落とししたりする児童が多く見られた。 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 ・漢字を文脈の中で正しく使う問題に課題が見られた。漢字の意味や使い方の理解が十分ではない様子がうかがえた。	【情報の扱い方に関する事項】 ・問題に取り組む前に設問や条件を確認し、何を問われているかを把握する活動を継続して行う。必要な情報に印を付けたり、不必要な情報を消したりするなど、情報を整理する習慣を身に付けさせる。 ・短時間で文章の要点を捉え、必要な情報を素早く見付ける力を身に付けられるよう、長文に慣れ親しませる。 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 ・漢字学習では、単語だけではなく文の中で使う活動を取り入れる。 ・新出漢字を学習する際に、同音異義語を取り上げたり、部首の意味について触れたりすることで、言葉の意味を理解できるようにする。
思考・判断・表現	【読むこと】 ・文章全体の内容を要約したり、目的に応じて必要な情報を整理したりする問題に課題が見られた。 【書くこと】 ・自分の経験について記述することはよくできていたが、複数の条件を踏まえて文章を書く問題に課題が見られた。条件を満たして書くことや、必要な内容を整理して表現することが十分ではなかった。	【読むこと】 ・時数制限を設けた要約活動を定期的に取り入れられたり、キーワードを基にまとめや振り返りを書いたりすることで、目的に応じて必要な情報を整理して書くことができるようにする。 【書くこと】 ・条件を確認しながら文章を書くような類似問題に繰り返し取り組ませることで定着を図る。 ・複数の資料を活用した話合いや書く活動を仕組み、多くの資料から自分の必要な情報を見付けることができるようにする。

◆令和8年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

全体の概要

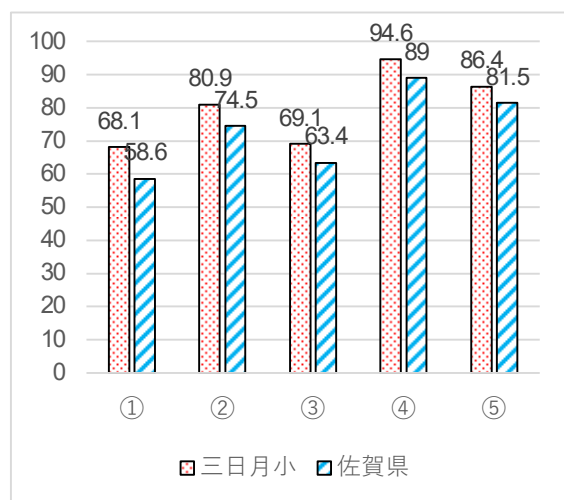
- ・全体的に見ると、県平均と同じであり、全国平均をやや下回っている。
- ・観点別に見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらも県平均とほぼ同じであり、全国平均をやや下回っている。
- ・領域別に見ると、「測定」「データの活用」は県平均とほぼ同じであり、全国平均をやや下回っている。「数と計算」「変化と関係」は県平均とほぼ同じであり、全国平均を大きく下回っている。「図形」は県平均と全国平均を大きく下回っている。

観 点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	【部分から全体をイメージする力】 ・展開図や部分図から直方体の構造を捉えることが難しく、文章条件の保持や分数の読み取りにも誤りが生じるなど、情報を整理しながら理解する力が十分に育っていない様子が見られた。 【数量を整理して判断する力】 ・数直線に既知の数値を書き込む基本操作が定着しておらず、単位分数と1の関係を正しく捉えられないなど、数量の関係を整理して判断する力が十分に発揮できない傾向が見られた。	【部分から全体をイメージする力】 ・立体模型や面カードを使った操作活動に加え、タブレットで立体を回転させたり展開図を組み立てたりする学習を取り入れ、部分図から全体をイメージする力を育む。 ・長い文章を一文ずつ区切って「何が分かったか」を整理する読み方を指導し、条件を保持しながら推論する力を高めることで、読み違いによる誤りを防ぐ。 【数量を整理して判断する力】 ・数直線に既知の数値を書き込む基本操作の徹底や、誤答例の比較による思考の振り返りを行い、単位分数と1の関係を正しく捉えながら数量を整理する力を育てる。
思考・判断・表現	【図形の構造の変化を説明する力】 ・複数の立体を組み合わせたときに、どの辺の長さが変化するかを整理し、図や言葉で「どのように求めるか」を説明する力に課題が見られた。 【単位量あたりの大きさを使って状況を判断する力】 ・除法の意味を状況に応じて使い分け、求めた商から“どちらが混み合っているか”などを判断し、その理由を言葉で表す力に課題が見られた。	【題意を読み取り、量の関係を理解する力】 ・図や文章が多い問題でも、まず、必要な情報だけを抜き出す練習を行い、問題の構造を整理しながら読み進める力を育てる。 ・視覚的に捉えることができるようにするために、問題の中で変化する部分や関係を図や表で整理する活動を取り入れる。 ・「どの長さを使うのか」「なぜその求め方になるのか」などを求める問題において、図→式→言葉の順で表現する活動を取り入れ、筋道立てて説明する力を伸ばす。

◆生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

【 数値が特に高かった項目 】

	調 査 の 項 目
①	英語の勉強は得意ですか。
②	あなたは自分でＩＣＴ機器を使ってプレゼンテーションを作成することができますか。
③	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか。
④	先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについてわかるまで教えてくれていると思いますか。
⑤	あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

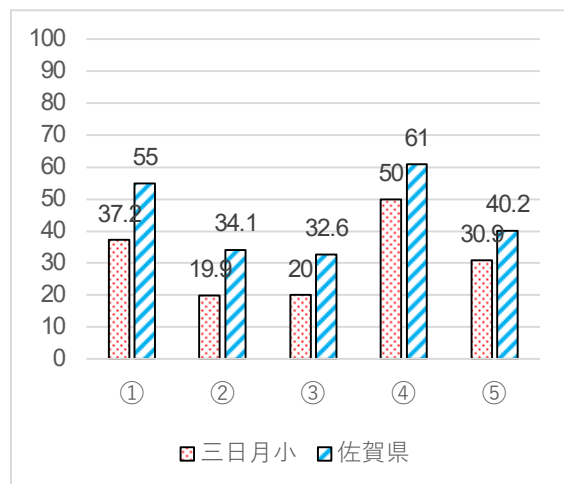


〈分析と今後の取り組み〉

- ・英語が好きな児童が多いため、中学校に向けて今後も英語への意欲を高める授業づくりを推進していく。
- ・プレゼンテーション作成に関する項目の数値が高いことから、情報スキル教育の積み重ねにより児童のスキル向上につながっていると思われる。
- ・算数での説明や学級会などでの話し合いに関する項目の数値が高いことから、国語の学習をはじめとして、伝え合う活動がコミュニケーション能力の育成につながっていると考えられる。

【 数値が特に低かった項目 】

	調 査 の 項 目
①	国語の勉強は好きですか。
②	学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか。（1時間以上）
③	昼休みや放課後に、本を借りたり読んだりするために図書室にどれくらい行きますか。（週1回以上）
④	国語の勉強は得意ですか。
⑤	平日1日あたりどれくらいの時間スマートフォン等を使っていますか。（2時間未満）



〈分析と今後の取り組み〉

- ・国語が好きな児童の割合が少ないため、国語の面白さを感じることができる授業づくりに努める。
- ・家庭学習や読書の時間が少ないことから、家庭との連携を図りながら、知識を得ることの楽しさを味わわせ、知的好奇心を高めさせる。
- ・スマートフォン等の使用時間が多いことから、家庭との共通理解を図り、低学年の時からルールを決めて、随時確認していく必要がある。